

1. 中央台地区の交通事情について ▶▶ 中央台高久3丁目から上蔵持に新道路建設

中央台地区は、この度の震災を契機に、多くの仮設住宅が設置されました。また、新築需要も旺盛で、独立行政法人都市再生機構いわき営業所によりますと、同機構としては、中央台地区の住居用の土地はすべて売り切り、在庫がない状況ということです。さらに、市内全体の人口が増えた結果、中央台地区の商業施設に足を運ぶ人々も増えました。

この状況から、中央台地区周辺の交通量は目に見えて増えました。交通が増えれば、それに伴い、交通事故の増加が危惧され、また、交通渋滞が多く発生します。

仮設住宅は、神戸の例では、廃止まで最長5年間を要したようです。この度の震災では、原発事故も絡み、避難の長期化は免れない状況です。長期化すれば、中央台地区周辺の交通量は、しばらく高止まりしそうです。以上を踏まえ、中央台地区を取り巻く交通事情について、質問しました。

中央台施設の仮設住宅は、6月12日現在、ちょうど千戸、入居者数は2,327人、同じく、借上げ住宅は、116戸、348人とのことでした。

いわき市全体の交通事故の発生件数は、平成24年1月1日から5月31日までの間、968件。この数字は、震災前の平成22年の同時期の数字983件と比較して同程度で、幸いなことに、交通事故は多くなっていない

ようです。

中央台南中学校の通学路となっている、市道山ノ神・中央台の安全確保についての質問には、狹隘箇所は幅等について、検討を進めて参りたい、と答弁がありました。現在、同市道は、主に鹿島小学校を卒業した、南中の生徒60名が通学路として利用しています。

通称鹿島街道と県道378号高久鹿島線の交差点、この交差点を、小名浜方面から中央台に入るために右折する車両の渋滞については、渋滞が激しくなっているとの認識を当局が示しました。

最後に、中央台地区と鹿島町上蔵持地区を結ぶ新道路の計画について確認しました。中央台高久3丁目地内から鹿島町上蔵持地内を経由し、県道江名常磐線に至る、延長約1.7kmの道路を整備する計画で、本路線の整備により、鹿島街道の交差点における渋滞の緩和にも大きく寄与するものであり、現在、関係地権者や住民を対象に地元説明会を開催し、用地協力について協議を進めているところで、今後、協議が整い次第、道路の実施設計等を進めて参りたい、とのことでした。早期の実現が期待されます。



2. 情報システムの継続性とコスト削減について ▶▶ クラウド化について検討

震災を契機に、福島県国見町では、役場で運用する情報システムの内、財務会計システム以外の、全てのシステムのクラウド化を進めています。また、愛知県の豊橋市と岡崎市は、国民健康保険・国民年金システムについて、クラウドサービスを、協同で利用することを決めました。豊橋市は人口約38万人、岡崎市は約37万人、どちらも、いわき市と同じ中核市です。国見町や豊橋市、岡崎市の狙いは、非常時における情報システムの継続性と、コストの削減です。



クラウドとは、ネット上で提供されるサービスを共同で利用する形態のことです。従来のコンピュータを自前で所有する形態に比べ、一般に、導入コストや運用コストは安く、震災などの際に、システムが停止する可能性が低くなります。

いわき市では、この度の震災で、情報システムに大きな被害はありませんでした。しかし、よりシステムの継続性を強固にするため、あわせて、コスト削減を図るため、クラウド化を推進する必要があるのでは、と質しました。当局の答弁は、セキュリティ対策などの課題を整理しながら、今後のクラウド化について検討して参りたい、とのことでした。積極果敢な取り組みを期待したいです。

みなさまのご意見、ご要望をお聞かせください。これからもよろしくお願ひいたします。